

利賀っ子だより



R3. 10. 14

○ 「なんとSDGsパートナー」に認定されました



南砺市におけるSDGsを取り入れたまちづくりに賛同し、自分ごととしてSDGsのゴール達成につながる取組を実施する団体として、利賀小学校が市内の52（10/1 現在）団体とともに「なんとSDGsパートナー」に認定されました。

これまで伝統的に行っているふるさと学習、クリーン作戦等だけでなく、日頃の生活もSDGsの視点から見直すことで、その意義や大切さが再認識されると考えています。

今年度は、高学年の児童が総合的な学習の時間にSDGsについて学習しています。SDGsの内容や意味等について調べた後、「廊下は右側通行」「いらぬ電気は消す」「置きっぱなしにしない」など自分たちにもできることを見付け、自分自身が取り組むことはもちろん、学校全体にも呼びかけています。

下の学年の子供たちも「あ、右側、右側」と言いながら教室を移動したり、放課後に通う“子ども広場”で「こっち側の電気いらぬから、消します。」と指導員さんに申し出たりしている様子を見聞きするにつけ、一人一人が意識を高くもち、できること続けることがSDGsの達成に大切であることを感じています。



朝の会で呼びかける高学年



校内に貼られたポスター

今年度の重点目標「他と関わりながら、自分で考え、判断し、行動する子供の育成」がSDGsの目標達成にもつながると思っています。

○ がんばることがたくさんある

山村留学生の一人が「毎日、がんばることがたくさんあるんです!!」と話しかけてきました。どんなことかと聞いてみると、「学習発表会で民謡の衣装を着て踊るのを（家族に）見てほしいし、合奏もみんなと合わせたいし、縄跳びもある。それに、（留学）センターの収穫祭で太鼓もする。個人体験もある。」とのことでした。聞いていた別の子供が「いっぱい詰め込んでいる感じ。」「これもできる、あれもできるってなっていく。」と成長していく自分を喜んでいるような会話がありました。

自分で目当てをもって活動することが、わくわくする毎日を保障することになるということの子供たちの会話から再確認しました。 (高田 公美)